

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校		平成13年11月16日		田中 克実		〒 600-8413 (住所) 京都府京都市下京区烏丸通仏光寺下る大政所町672番地1 (電話) 075-344-1341				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中本 每彦		〒 101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田一丁目1番3号 (電話) 03-6261-7717				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		法律行政学科		平成16(2004)年度		-		平成28(2016)年度	
学科の目的		教育基本法および学校教育法に基づき、法律および行政に関する教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		主な教育内容：一般教養(一般知能、一般知識)、法律および行政に関する内容 取得可能な資格：一般教養力検定、漢字検定								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,700 単位時間	1,870 単位時間	2,480 単位時間	720 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率				
240 人	165 人		0 人		0 %	10 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		61 人							
	■就職希望者数(D)		56 人							
	■就職者数(E)		56 人							
	■地元就職者数(F)		17 人							
	■就職率(E/D)		100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		30 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		92 %							
	■進学者数		4 人							
	■その他									
	家事手伝い(公務員再受験)									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:				無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載									
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/kyoto/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数					1,700 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数					75 単位時間				
	うち必修授業時数					15 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					15 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間				
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数					- 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					- 単位				
	うち企業等と連携した演習の単位数					- 単位				
うち必修単位数					- 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					- 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					- 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					- 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					1 人				
	② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					3 人				
	③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					1 人				
	⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人				
	計					5 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					0 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

①卒業生の主な就業先である国家公務員・地方自治体に関する有識者である大学や企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。

②法律行政分野における学修の中心となる法律、基礎教養力、計数能力は勿論のこと、行政の仕組み、コミュニケーション技術や職種別の専門知識などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。

③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も分野ごとに各校共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置付けについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置付ける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長(課長)が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年8月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
久保田 征鑑	京都行政書士会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
安井 栄二	立命館大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②
田中 克実	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	—	—
今西 智也	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	—	—
石橋 清隆	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月1日 16:20～17:00

第2回 令和6年11月14日 16:00～17:00

第1回 令和7年8月7日 16:20～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①短期計画:多種多様な試験制度への対応

過去の教育課程編成委員会で「意思疎通能力」に関してのご助言を多数賜ったが、現在においても主要な課題であると認識している。「キャリアデザイン系」の講義内容につき見直しを行ったが、内容については今後も継続検討していく。

SPI試験・SCOA試験対策につき、開始時期や効果的な利用方法を引き続き検討していく。

②中・長期計画:ICT教育の導入

ア. ポータルサイトの公開(学生向け・家庭向け)

イ. デジタルコンテンツの拡充

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

- (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
- ①法律行政分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行われる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行う。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて、学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を受ける。
- (2)実習・演習等における企業等との連携内容
- ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
- 職業実践の趣旨をご説明し、ご理解頂いたうえで、法律、経済、行政の仕組み、授業運営に関して企業等と協定書を締結、打合せを行い、授業方法や目標到達点、学生の習熟状況の評価など以下4点について連携を行っている。
- ① 実習授業の内容構築に対するサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
職業実務Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	防衛省からお招きした講師による講義を受け、各自研究課題を作成する。	防衛省自衛隊
職業実務Ⅱ	3.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	京都行政書士会から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁研究を行う	京都行政書士会
職業実務Ⅲ	4.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	公官庁(国家省庁など)から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁研究を行う	国税局
行政研究	5.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	災害対策に関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	防衛省自衛隊

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- 専門的かつ実践的な知識・技能を有し、即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する正確な知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。そのために下記の通り教職員研修の環境を整える。
- 「大原学園 教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は以下の通り。
- ①教育課程編成委員会に参加する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ②京都府(関連団体等含む)主催の実践的な知識・指導スキル研修
- ③大学教授・弁護士・行政書士等、専門分野に特化した講師を招いた研修会の実施

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	教務力向上研修 政治・社会科学編	連携企業等:	藤木新生法律事務所
期間:	令和6年3月	対象:	当学科専任教員
内容	最新の法律行政知識を学び、研修後に教員より学生へフィードバックを行う		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	令和6年教員研修会	連携企業等:	一般社団法人京都府専修学校各種学校協会
期間:	令和6年9月14日	対象:	当学科専任教員
内容	多様化する専門学校生の傾向をふまえた「中退防止に向けた指導力と学力向上(実践編)」		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	公務員の服務と倫理	連携企業等:	公務人材開発協会
期間:	令和7年12月予定	対象:	当学科専任教員
内容	公務員の実務を含む規定を軸とした講演		
研修名:	教務力向上研修 政治・社会科学編	連携企業等:	藤木新生法律事務所
期間:	令和7年3月予定	対象:	当学科専任教員
内容	最新の法律行政知識を学び、研修後に教員より学生へフィードバックを行う		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	令和7年度教員研修会	連携企業等:	一般社団法人 京都府専修学校各種学校協会
期間:	令和7年9月13日(土)	対象:	当学科専任教員
内容	中退を防ぐ学修支援とデータ活用		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して、以下に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職によって改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。

(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会において、社会との関わりにつき多くの意見を頂戴した。今年度のテーマとして取り組んでいる挨拶運動について、参加委員全員より評価をいただき、更に学生の意識を高めるためにマナーの自己点検を実施してはどうかとのアドバイスを頂戴し、実施に向け検討している。また、学校として地域清掃活動を開始したことについて一定の評価を頂戴したが、社会貢献の意識を高めるべく、地域のボランティア活動に積極的に参加する環境づくりを行い、社会適応能力を高める機会を増やしたいと考える。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
徳元 利貴	株式会社Vaton	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
土肥 豊	一日一笑税理士事務所	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
森本 貴之	木津屋橋武田病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
竹本 均	株式会社サップス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
山本 重尚	青山商事株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
久保田 征鑑	京都府行政書士会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
吉本 美枝	公益社団法人京都府歯科衛生士会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の受入
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 法律行政学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1			○	キャリアデザインⅠ	公務員の全般的な仕事を理解し、公務に必要なマナー・応対力・一般常識の基礎を学ぶ	1通	30	1		○		○		○		
2			○	キャリアデザインⅡ	面接試験に向けての準備作業法を修得し、春試験2試験種に向けた面接指導を行う	1後	30	1		○		○		○		
3			○	キャリアデザインⅢ	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	1後	30	1		○		○		○		
4			○	ビジネス教養Ⅰ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	1通	30	1		○		○		○		
5			○	ビジネスマナー	社会で求められる一般的なビジネスマナーと電話応対を学ぶ	2通	60	2			○	○		○		
6			○	ビジネス文書作成	ビジネス文書を作成する上で必要となるレベルのWORDの操作方法を学ぶ	2通	30	1	○			○		○		
7			○	ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う。および一般教養に関する問題演習	2通	30	1		○		○		○		
8	○			基礎数的Ⅰ 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	1前	50	2	○			○		○		
9	○			基礎数的Ⅱ 判断推理	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	40	2	○			○		○		
10	○			基礎数的Ⅲ 空間把握	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	1通	40	2	○			○		○		
11	○			基礎社会科学Ⅰ 政治	基本的人権や統治機構などの憲法の基礎知識を学ぶ	1前	30	2	○			○		○		
12	○			基礎社会科学Ⅱ 経済・社会	経済の基礎知識、社会の基礎知識を学ぶ	1前	40	2	○			○		○		
13	○			基礎自然科学Ⅰ 生物	生体から自然環境まで、幅広い生物分野を学ぶ	1通	20	1	○			○		○		
14	○			基礎言語Ⅰ 文理・国語	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解能力の習得	1前	20	1	○			○		○		

15	○		総合教養演習 Ⅰ 基礎教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・政治・ 文章理解の知識を学ぶ	1 前	60	2		○		○		○				
16	○		総合教養演習 Ⅱ 実践教養	模擬試験と解説を通じ、数的推理・判断推 理・空間把握・文章理解・政治・経済・社 会の知識を学ぶ	1 後	60	2		○		○		○				
17	○		一般教養Ⅰ	一般教養として、社会で求められる漢字の 知識を身につける	1 前	30	1		○		○		○				
18	○		職業実務Ⅰ	官公庁から講師をお招きし、その講義から 得た知識を基に官庁企業研究を行う	1 通	15	1		○		○		○			○	
19		○	トレーニング 実習	トレーニング関連の講義から得た知識を生 かした実習を行う	1 通	30	1			○	○		○				
20		○	基礎人文科学 Ⅰ 地理	気候、地形、世界各国の産業など地理の基 礎知識を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○				
21		○	基礎人文科学 Ⅱ 日本史	大和政権から昭和までの日本史を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○				
22		○	基礎人文科学 Ⅲ 世界史	中国の歴代王朝と、ヨーロッパ世界を中心 とした世界の歴史を学ぶ	1 後	30	1	○			○		○				
23		○	基礎自然科学 Ⅱ 地学	地球の内部構造から宇宙まで、幅広い地学 分野を学ぶ	1 後	20	1	○			○		○				
24		○	基礎自然科学 Ⅲ 物理	基本的な公式を覚え、運動・熱・電気など の仕組みを知る	1 後	20	1	○			○		○				
25		○	基礎自然科学 Ⅳ 化学	物質の仕組みや物質の変化を知識として深 める	1 後	20	1	○			○		○				
26		○	基礎自然科学 総合	物理・化学の基礎知識を習得する。	1 後	20	1	○			○		○				
27		○	基礎演習Ⅰ 数的処理	数的処理の基礎知識をアウトプットするこ とで定着を図る	1 通	40	2		○		○		○				
28		○	基礎演習Ⅱ 社会科学	政治・経済の基礎知識をアウトプットする ことで定着を図る	1 通	30	1		○		○		○				
29		○	基礎演習Ⅲ 人文科学	歴史・地理の基礎知識をアウトプットする ことで定着を図る	1 後	30	1		○		○		○				
30		○	基礎演習Ⅳ 自然科学	歴史・地理の基礎知識をアウトプットする ことで定着を図る	1 後	20	1		○		○		○				
31		○	基礎演習Ⅴ 知能系科目総合	問題演習を通じて数的推理・判断推理の総 復習を行う	1 通	60	2		○		○		○				

32			○ 基礎演習Ⅵ 知識系科目総合	問題演習を通じて知識系科目全体の総復習を行う	1通	60	2		○		○		○						
33			○ パソコン実習Ⅰ	社会で求められる一般的なレベルのWORDとEXCEL等の操作方法を学ぶ	2後	30	1			○	○		○						
34			○ パソコン実習Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	2通	30	1			○	○		○						
35			○ パソコン実習Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得の為の実習	2通	30	1			○	○		○						
36			○ 卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2後	30	1	○			○		○						
37			○ 基礎答案練習	模擬試験を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	1通	20	1		○		○		○						
38			○ 憲法	基本的人権や統治機構などの憲法の基礎知識を学ぶ	1通	40	2	○			○		○						
39			○ 民法	総則や物権、債権など民法の基礎知識を学ぶ	1通	70	3	○			○		○						
40			○ 行政法	行政作用法、行政救済法および行政組織法について行政法の基礎知識を学ぶ	1通	40	2	○			○		○						
41			○ 政治学	政治学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						
42			○ ミクロ経済学	ミクロ経済学の基礎知識を学ぶ	1通	40	2	○			○		○						
43			○ マクロ経済学	マクロ経済学の基礎知識を学ぶ	1通	40	2	○			○		○						
44			○ 社会学	社会学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						
45			○ 会計学	会計学の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						
46			○ 社会事情	社会事情の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						
47			○ 経済事情	経済事情の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						
48			○ 国際関係	国際関係の基礎知識を学ぶ	1通	20	1	○			○		○						

49			○ 経営学	経営学の基礎知識を学ぶ	1 通	20	1	○			○	○		
50			○ 行政学	行政学の基礎を学ぶ	1 通	20	1	○			○	○		
51			○ 財政学	財政学の基礎を学ぶ	1 通	20	1	○			○	○		
52			○ 公務員 基礎 情報工学	情報処理に活用することを前提とした数学 知識の習得。	1 後	30	1	○			○	○		
53			○ 公務員 IT基 礎知識	デジタル枠での採用試験への対応を前提と したIT知識の習得。	1 後	30	1	○			○	○		
54			○ 専門科目総合 演習Ⅰ	科目別答練の実施や既習科目の総復習を通 じ、専門科目の知識の定着を図る。	1 後	30	1		○		○	○		
55			○ 一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語な ど国語分野に関する知識まで身につける	1 後	30	1		○		○	○		
56			○ 職業実務Ⅱ	警察署から講師をお招きし、その講義から 得た知識を基に官庁企業研究を行う	1 後	15	1		○		○	○		○
57			○ 職業実務Ⅲ	官公庁（国家省庁等）から講師をお招き し、その講義から得た知識を基に官庁研究 を行う。	1 後	15	1		○		○	○		○
58			○ 職業実務Ⅳ	実務経験のある講師をお招きし、その講義 から得た知識を基に官庁企業研究を行う	1 後	15	1		○		○	○		○
59			○ 職業実務Ⅴ	官公庁（国家公安職）から講師をお招き し、その講義から得た知識を基に官庁企業 研究を行う	1 後	15	1		○		○	○		○
60			○ 公 共 ボ ラ ン ティア実習Ⅰ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実 習も踏まえて理解を深める	1 通	30	1			○	○	○		
61			○ 公務員模擬受 験	模擬公務員試験を実施し実際の公務員試験 の流れを把握する	1 後	20	1		○		○	○		
62			○ Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用 方法を習得する	1 後	60	2			○	○	○		
63			○ I Tリテラシ	ネットワーク、セキュリティの知識とコン ピュータの基本操作を学ぶ	1 後	90	3			○	○	○		
64			○ Power Point 基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作 を理解する	1 通	30	1			○	○	○		
65			○ 時事	現代社会における主要な時事の基本用語を 理解し、自分の考えや意見を持つための学 習	1 後	30	1	○			○	○		

66			○	基礎人文科学 総合	西洋及び東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2 前	20	1	○				○		○		
67			○	基礎数学Ⅰ	基本的な数学計算の能力を身に着け、文章問題を解答する	2 前	20	1	○				○		○		
68			○	基礎言語Ⅱ 英語	文法や熟語など英語分野の基礎的な知識の習得	2 前	30	1	○				○		○		
69			○	応用演習 数 的処理Ⅰ	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2 前	20	1		○			○		○		
70			○	応用演習 数 的処理Ⅱ	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2 前	20	1		○			○		○		
71			○	応用演習 知 識系科目総合 Ⅰ	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2 前	20	1		○			○		○		
72			○	応用演習 知 識系科目総合 Ⅱ	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2 前	20	1		○			○		○		
73			○	公務員就職試 験対策演習	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2 前	30	1		○			○		○		
74			○	応用演習 数 的処理本試験 対策	数的分野全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化。	2 前	20	1		○			○		○		
75			○	応用演習 知 識系科目本試 験対策	知識系科目全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化。	2 前	20	1		○			○		○		
76			○	総合答案練習 Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	150	5		○			○		○		
77			○	総合答案練習 Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 通	40	2		○			○		○		
78			○	直前答案練習 Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	180	6		○			○		○		
79			○	直前答案練習 Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	120	4		○			○		○		
80			○	直前答案練習 Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 後	30	1		○			○		○		
81			○	上級答案練習 Ⅰ 専門科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、専門科目の知識を学ぶ	2 前	60	2		○			○		○		
82			○	上級答案練習 Ⅱ 専門科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、専門科目の知識を学ぶ	2 前	60	2		○			○		○		

83			○	上級答案練習Ⅲ 教養科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2 前	30	1		○		○		○				
84			○	上級答案練習Ⅳ 教養科目	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2 前	30	1		○		○		○				
85			○	上級答案練習Ⅴ 公安職対策	模擬試験と解答解説の学習を通じ、教養科目の知識を学ぶ	2 前	30	1		○		○		○				
86			○	専門科目総合演習Ⅱ	専門科目全般の問題演習による総合力の強化	2 前	120	4		○		○		○				
87			○	公務員時事研究	就職先に関連する社会的ニュースを考察する	2 前	60	2		○		○		○				
88			○	公務員キャリアデザイン基礎	効果測定を通じて面接の基礎を習得し、4種試験に向けた面接指導を行う	2 前	90	3		○		○		○				
89			○	公務員キャリアデザイン公務員春受験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2 前	30	1		○		○		○				
90			○	公務員キャリアデザイン公務員秋受験	公務員秋試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2 後	120	4		○		○		○				
91			○	公務員適性検査演習Ⅰ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2 前	60	2		○		○		○				
92			○	公務員適性検査演習Ⅱ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2 前	30	1		○		○		○				
93			○	公務員教養論文対策	公務員教養論文試験対策のレクチャーおよび実践練習を行う	2 前	30	1		○		○		○				
94			○	公務員専門論文対策	専門論文・論作文対策について学ぶ	2 前	30	1		○		○		○				
95			○	公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2 前	20	1	○			○		○				
96			○	公務員倫理	公務員に関する法令や服務規程を学ぶ	2 後	15	1		○		○		○				
97			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2 通	30	1				○	○		○			
98			○	法律研究	身近な法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2 後	30	1				○	○		○			
99			○	行政研究	災害対策に関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	2 通	30	1				○	○		○			○

100			○ 一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2通	30	1		○		○		○						
101			○ 販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	2通	90	3	○			○		○						
102			○ 販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2後	90	3	○			○		○						
103			○ F P 基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	120	4	○			○		○						
104			○ F P 応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	60	2		○		○		○						
105			○ F P 総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する	2前	90	3		○		○		○						
106			○ I T パスポート基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2通	90	3	○			○		○						
107			○ I T パスポート・リテラシ演習	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2後	30	1		○		○		○						
108			○ I T パスポート応用	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方を問題演習を通じて学ぶ	2後	60	2		○		○		○						
109			○ コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	2前	30	1		○		○		○						
110			○ 給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務を行うために必要な知識を習得する講義	2後	30	1	○			○		○						
111			○ 英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2通	30	1	○			○		○						
112			○ 経営常識	日常生活や仕事に役立つ用語、事例学習	2後	30	1	○			○		○						
113			○ 接遇ビジネスマナー	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	2通	30	1			○	○		○						
114			○ 経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票等類についての知識を習得するための講義	2後	60	2	○			○		○						
115			○ 財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度についての理解を深めるための講義	2後	90	3	○			○		○						
116			○ 販売仕入管理	販売、仕入に関する店舗運営上の管理業務に関する知識を習得する講義	2通	30	1	○			○		○						

117			○	言語知識（中国語）Ⅰ	中国人ネイティブ講師による講義	2 後	30	1	○				○		○		
118			○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2 通	30	1				○	○		○		
119			○	販売職ビジネスマナー	接客に関する実践的な学習をする	2 後	90	3				○	○		○		
120			○	プレゼンテーション	企画から発表までの一連の流れ	2 後	30	1				○	○		○		
121			○	マーケティング概要	マーケティングの必要性和目的を学習する	2 通	30	1	○				○		○		
122			○	マーケティング概論	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2 後	60	2	○				○		○		
123			○	卒業研究・発表	実店舗を題材にして、課題に対する改善策を提案し発表する	2 後	60	2				○	○		○		
124		○		公務員時事対策	国内問題、国際問題問わず幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2 前	30	1	○				○		○		
合計				124 科目				5070 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	卒業の認定は、修業年限以上在学し、1,700時間以上を履修し、かつ定められた授業科目を修得し、卒業審査に合格した者について、校長が行う。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	第1学年：自由選択科目より453時間以上を選択し、履修するものとする 第2学年：自由選択科目より850時間以上を選択し、履修するものとする	1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。